

母子の心理・社会学

ナンバリング:N3-S2-L02

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 高橋 淳美 講師		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座、神経精神科学講座		
対象学年	3	区分/単位数	講義/1単位
期間	前期		

・学修方針(講義概要等)

周産期における母子や女性・家族の心理社会的背景や発達の基本をふまえ、心理社会的なハイリスク事例がおかれた状況を理解し、対象がより健康で安全な経過をたどることができるための助産ケアのあり方について学修する。具体的には、母子分離、ペリネイタル・ロス、産後うつと児童虐待、DV、特定妊婦、里親制度について学ぶ。

・教育成果(アウトカム)

周産期における母性・父性・家族の発達や精神病理について心理学的な側面から理解し、母性・父性・家族についての考え方の歴史の変遷や現代における課題について、社会・文化的側面から理解を深めることができる。また、母子を取り巻く厳しい状況下で「親になること」を支援するための助産ケアのあり方について理解できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性を持ち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 母子とその家族が、地域・社会から受ける影響を理解し、それに対する助産師の働きかけを説明できる。
2. 母子を守る保健医療福祉におけるサービスを理解し、情報を提供する仕組みと助産師としての役割を説明できる。
3. 母子とその家族の意思を尊重した助産師の役割を述べるができる。
4. 女性、妊産婦および家族の社会的、心理的な健康状態をアセスメントし、社会資源の活用方法を列挙できる。
5. 自主グループと地域組織活動における助産師の役割を述べるができる。
6. チーム医療における多職種の役割を理解し、女性やその家族を中心とした連携と協働のあり方について説明できる。

・授業日程

【講義】

会場：マルチメディア教室、マルチ3A、マルチ4A、東2A、マルチメディア教室

月日 曜日 時限	授業内容/到達目標	担当教員
4/24 金 5限	<p>【授業内容】母子をとりまく心理社会的現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子をとりまく心理社会的現状を多面的にとらえることができる ・母子をとりまく心理社会的現状が健康や生活に及ぼす影響を理解できる ・現代の母子を支える助産師の役割を説明できる <p>【関連するSBO】1.2.3.4</p> <p>【事前学修:120分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「女性のライフサイクルにおける心理・社会的課題」(P2-4)をもとに予習を行う <p>【事後学修:60分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子を取り巻く心理・社会的課題について重要点をノート等にまとめる(5/29(金)提出) 	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授

5/8 金 4限	<p>【授業内容】ハイリスク状態にある妊婦と家族への支援①/周産期メンタルヘルス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな状況で子育てをする母親の心理社会的背景を説明できる ・周産期のメンタルヘルスへの介入が母子を支えるうえで重要である理由を述べる事ができる ・切れ目ない支援のために多職種連携の必要性を述べる事ができる <p>【関連するSBO】4.6 【事前学修:60分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン産科編2023 CQ011を読む、マタニティーブルーズ、産後うつ病、産褥期精神病の違いを理解する <p>【事後学修:90分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の講義を要約し、支援について考察する(約400字以上 提出) 	神経精神科学講座 福本 健太郎 准教授
5/14 木 1限	<p>【授業内容】母子関係の形成と課題/妊娠期の母子関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性の発達過程について理解できる ・妊娠期の母子関係の特徴を説明できる ・母子関係の形成に向けた助産師の役割を説明できる <p>【関連するSBO】1.2.3.4 【事前学修:120分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「母子関係の形成と課題」のうち「母性の発達過程」および「妊娠期の母子関係」(P76-89)をもとに予習を行う <p>【事後学修:60分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子関係の形成と課題および妊娠期の母子関係について重要点をノート等にまとめる(5/29(金)提出) 	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授
5/20 水 4限	<p>【授業内容】出産・産後の心理と母子関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性の発達過程を理解できる ・新生児期・乳幼児期における愛着(アタッチメント)の発達について説明することができる ・母子関係の病理(周産期・子育て期のうつ病)の母子関係への影響について述べる事ができる <p>・さまざまな状況で(母子分離、障害をもつ子どもの子育て、ペリネイタル・ロス)におかれた母親の心理を理解できる</p> <p>【関連するSBO】1.3.5.6 【事前学修:90分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P97の表をみながら、アタッチメントに関する動画を視聴(事前に配布)し、母親への支援としてできることをノートに記載する <p>【事後学修:150分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学修と本日の講義をふまえた上で、愛着形成の視点から、母親への支援について考察する(200字程度の小レポート提出) 	成育看護学講座 遊田 由希子 特任教授
5/22 金 5限	<p>【授業内容】家族の多様化と育児を取り巻く社会構造(ディスカッション/指導補助者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の家族構造の多様化を説明できる ・ステップファミリーや単親家庭、多文化家庭の特徴と支援上の留意点を理解できる ・家族システムの視点から、家族内の関係性や役割を分析できる ・里親家庭、養子縁組の実際について理解できる <p>【関連するSBO】1.2.3.4.6 【事前学修:90分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書第4章、第5章を読み、現代の家族構造にはどのようなものがあるかを挙げてくる ・夫婦、親子に関する基本的な法的ルールについて確認する。教科書p192~207 <p>【事後学修:90分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な家族のケースを1つ選び、支援上の留意点を整理する(レポート提出) 	成育看護学講座 高橋 淳美 講師
5/25 月 3限	<p>【授業内容】母子および女性の脆弱性の理解と社会的リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年妊娠、DV、虐待リスクなどの社会的リスク要因を説明できる ・社会的孤立や精神的困難を抱える母親の心理を理解できる ・リスクアセスメントの視点でケースを検討できる <p>【関連するSBO】2.3.4.6 【事前学修:90分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「夫婦間関係と子どもの発達」p136~150、「現代日本の子ども」261~266を読み、予習してくる。 <p>【事後学修:90分】 リスク要因を含むケースを読み、アセスメントシートを作成し提出</p>	成育看護学講座 西里 真澄 講師

5/25 月 4限	<p>【授業内容】地域資源と多職種連携(ディスカッション/指導補助者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健制度や地域資源の概要を説明できる ・多職種連携の意義と基本的な協働のポイントを理解できる ・ケースに応じて適切な支援資源を選択し、連携の方向性を考えられる <p>【関連するSBO】5.6 【事前学修:90分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢巾町在住の母子とその家族が利用できそうな場所(施設)を3つ探し、その施設(場所)がどんな母子とその家族のニーズにこたえられそうかを考えてくる <p>【事後学修:150分】地域資源マップの作成(次回までに完成)</p>	成育看護学講座 高橋 淳美 講師
5/29 金 5限	<p>【授業内容】ケーススタディ(ディスカッション、グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子の心理・社会的背景を統合してケースを分析できる ・家族構造やリスク要因を踏まえた支援計画を立案できる ・助産師としての倫理的姿勢とセルフケアの重要性を説明できる <p>【関連するSBO】1.2.5.6 【事前学修:60分】地域資源マップの作成 【事後学修:330分】母子の心理・社会的背景を踏まえた支援計画の立案</p>	成育看護学講座 高橋 淳美 講師

・教科書・参考書等

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第6版	我部山キヨ子 編 他	医学書院	2023
参	最近の母子保健を取り巻く状況 https://www.jfpa.or.jp/mother_child/2024saishinnoboshi_web.pdf	こども家庭庁	こども家庭庁	2024
参	産婦人科診療ガイドライン 産科編2023	日本産婦人科学会 日本産婦人科医会 編 監修	日本産科婦人科学会事務局	2023
参	EPDS活用ガイド	宗田聡 他	南山堂	2017

・成績評価方法

【総括的評価】地域資源マップと母子の心理・社会的背景を踏まえた支援計画の提出にて評価80%、GWの参加状況での評価20% (GWの評価は、授業内で配布する評価表に沿って評価する)
【形成的評価】事後課題の提出を求め、適宜フィードバックを行う

DP	SBO	小テスト	定期試験	課題	GW	実技	その他
3578	145			80			
124	236				20		
合計		0	0	80	20	0	0

〈備考〉

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】
レポート課題は、書式、提出期限などを確認してWebClassで提出すること。
提出されたレポートは評価後適宜コメントを付し返却する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】
助産師(別表2):助産診断・技術学

【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】
当該科目に関連する実務経験の有無 有
大学病院等や行政で医師、助産師、保健師として実務経験を持つ教員が専門領域に関する教育を行う

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター(VPL-FWZ60)	1	講義用スライド投影